

新刊紹介

校本閑居友

浜千代清編

本書は尊経閣本『閑居反』を底本として、現在知られている十種の伝本との校異を記したものである。巻末に〈補注〉および論文「閑居友の伝本について」を附す。(昭和四九年九月一〇日刊 A5判二九〇ページ 一八〇〇円 桜楓社)

閑居友

沼波政保編

本書は編者架蔵の木板本(無刊記本)を影印に附したものである。首尾に解題と校異が添えられている。(昭和五〇年一〇月一日刊 A5判一九七ページ 八五〇円 文栄堂)

葛の松原

山本唯一解題

本書は大谷大学図書館蔵の木板本を影印に附したもので、巻頭に解題が添えられている。(昭和五〇年三月二〇日刊 A5判七五ページ 六五〇円 文栄堂)

義門研究資料集成

別巻(三)

三木幸信編

本書は別巻(二)の後の資料を編集したもので、この集成は本巻で

完結する。その内容は(一)書簡(一)義門書簡(全統)、(二)義門宛書簡、(三)中山美石書簡、(四)伴信友書簡、(五)逢伝書簡、(六)藤井高尚書簡、(七)関政方書簡、(八)青山茂春書簡、(九)新井守村書簡、(十)岡部東平書簡、(十一)北条氏諱書簡、(十二)谷森種松書簡、(十三)小田清雄書簡)
(二)文藻(一)白雪楼家集、(二)宗祖聖人の伝絵十五段の歌、(三)七高僧をたたへ奉りてよめる、(四)伏見宮^{上貞}親王の御手ふれさせたる比巴の緒の言葉、(五)詠富士百首歌、(六)応茅絢舎主人需詠、(七)歌文、(八)詠史歌)を翻刻し、巻末に義門年譜・義門研究資料目録を附したものである。(昭和五一年二月二〇日刊 A5判三〇三ページ 一〇、〇〇〇円 桜楓社)

東条義門—近世国語学を樹立した一人の学僧—

三木幸信著

本書は真宗の僧侶であった義門の生涯を追尋しつつ、義門が築き上げた近世国語学を解明したもので、その内容は、(一)序に代えて、(二)生い立ち、(三)高倉学寮の学風、(四)義門の学匠、(五)音韻の研究、(六)語辞活用の研究、(七)妙女尼公調査と江戸の学匠、(八)真宗聖教の研究、(九)晩年の義門の九章より成る。(昭和五〇年十一月二五日刊 B6判二五〇ページ 一八〇〇円 桜楓社)

(石橋)